

令和6年9月18日（水）
内子分庁3階大会議室

内子町部活動地域移行推進連絡協議会（第4回）会議録

挨拶 第3回に引き続き、第4回を開催できることを感謝します。前回は、愛媛広域スポーツの3名に来ていただいて、話を聞くことができました。委員の部活動についての考え方も聞けましたし、保護者やそれぞれの立場の人が様々な考えをもっていて、それぞれに違うということが分かりました。生徒についてもそうだと思います。今は、地域クラブのあり方を探っているところです。本日は、後半にグループ協議もあります。活発な意見をお願いいたします。

◆協議1 拠点校部活動の現状と今後の予定について

（ア）部活動入部状況

（イ）小学生事前アンケート

（ウ）PTA会費（生徒会費）等の原案について

司会 PTA会費の金額について、(A案)月300円、年間3600円、(B案)月500円、年間6,000円という案です。(計算の根拠に地域振興費がはいっているが、)地域振興費は各学校別に集めるということか。部活動とは、違うことに使うということで引き続きお願いするということか。

事務局 何に使うかは、各学校の考えになると思います。部活動に使うということもありだと思います。

司会 ただそうすると割り当てが難しいのではないか。

事務局 拠点校部活動としてどう使うかということになると思います。

司会 保護者が負担するという事で、保護者代表の方、ご意見をお願いいたします

委員 PTA総会にかけてどうするか考えたい。各学校で協議して、否決されたりすることもあると考えると難しい。この金額が高いのか安いのかもよく分からないので、どう説明するか困難だと感じるが、各学校総会で決めなければならないと思う。

事務局 町内合わせるとよいという気持ちはあると思う。町PTA連合会との懇談会をきっかけに、それぞれのPTAで、金額をどうするのかいろいろ話して知ってもらい、PTA総会ではかるという流れではどうかと考えているが。

委員 部活動で何割使うのか

事務局 (案の根拠は、) P T A会費のうち、部活動に使用している分を取り出している。そのため、すべて部活動に使用する。

委 員 P T A会費はこれとは、別に集めるということか。

司 会 大瀬中、小田中、五十崎中は、増額になる。丁寧に説明していく必要がある。

委 員 部活ごとのばらつきはないのか。

事務局 各学校だいたい平等に配分されている。金額が足りない分は保護者会費を活用している部活動が多い。

司 会 新たに必要経費が発生したときに集めているということ。

委 員 実際部活動でどれくらいばらつきがあるのか。

事務局 大会も種目によって、登録費用が高いものもある。部活動費では間に合わず、保護者会費で支払っている。

委 員 どこかで線引きをするということか。

事務局 P T A会費としての位置付けとして線引きが必要。

委 員 P T A会費案の表の見方を教えてほしい。大瀬中の場合は、個人負担年額 1,700 円から 6,000 円になるということか。

事務局 そのような案になっている。

司 会 最終的には、協議していただく。会費が高いため部活できないということではどうかと思う。

委 員 今以上に負担があり、ある程度は苦しいと思う。地域振興費をなしとしているので余計そのようになっている。例えば、企業からいただいたお金は寄付金として処理できるのか。寄付控除が受けられるなら寄付が増えることもあるかもしれない。そういったこともできるなら地域からお金も増えて少し楽になるかもしれない。

司 会 一般的には、役場に寄付することで、企業は控除を受ける。目的を付けての寄付で、町のほうで財政配分されればそういったこともできるかもしれない。

委 員 学校に現金の寄付は今までなかった。

司 会 備品の寄付はありますよね

委 員 備品はあります。

委 員 P T A会費を一緒にするという説明について、いずれ中学校が合併するという話はないのか。そういった話があると、少しは納得しやすいように思うが。

司 会 そういった話はない。余計にややこしくなると思う。

委 員 地域のお金についてはどうするのか

司 会 地域ででてきたお金は学校で活用する。

委員 部活動地域移行として使用する方法もあればよいのでは。

委員 今は、過渡期で、PTA総会、後援会総会に、拠点校部活動で使うことは了承を得ている。

司会 来年度以降の案ということで、ここでまとめるのか。

事務局 現在の個人負担のみを基礎としたA案、地域振興費も加えたB案ということで案を立てたが、案を出しながら、協議を進めていきながらということではいかがかと思う。またご意見をいただきたい。

司会 今度のPTA総会で話すということだが、結論はなくていいのか。

事務局 現段階では、結論が出しづらいと思う

司会 結論ではなく、こういく考えがあるということを伝え、話し合ってもらおう。考え方としてこれでよいのかということころ。

委員 よい

◆協議2 地域クラブ活動の運営について

(ア) 第3回会議録の確認

(イ) 論点整理

(ウ) グループ協議について

委員 基本的な考え方、知徳体を見直すということと聞こえた。

事務局 ベースは変わらない。具体的な運営主体が変わる。運営主体が変わることによる制限についても考えながら、ベースの考えをどうあてるか。運営団体のイメージをどうつけるか

司会 部活動の教育的意義は、地域移行しても変わらない。ただやり方が変わる。地域移行した部活を誰がどう運営するかという段階にきている。前回(第3回)で、アドバイザーが「クラブの全体を統括している人が中心となった組織づくりが必要」「国の方針として動き出している」ということで「違和感のある方もいると思うが今は一歩踏み出す時」という意見もあったし、よく分かる。前を向いて進まないといけないと思う。他になればグループ協議に移りたいと思う。

アドバイザー 現在、全国的に動いているところということは感じている。グループ協議について、まだどういった形式をとるのか決定はしていないが、移行にあたり、どんなことを行うのか。中学生を中心としたどう作るのか。中学生の環境をどう作っていくかということだと思う。また、小学生、大人を含め、内子町のスポーツ環境をどう作るかということも出てくると思うが、今は中学生について、町がどうか変わるか協議していければと思う。

◆グループ協議 地域移行全般について

<各グループで自由に出された意見> ※ グループでの意見を項目で集約

(1) スポーツ、文化を経験できる環境づくり

- 伸び伸びとできる環境・みんなが楽しく集まれる場所と環境がよい。
- 現在と同様にできる環境が望ましい。
- 現在の拠点校部活動はとても意味のある取組で、非常に良い。
- 中学校が部活動を地域移行した後が心配。中学校を卒業し高校に入学すると高校の部活動が始まる。厳しさ・礼儀面など中学校の地域クラブから高校の部活動へ上手く移行できるか心配。高校に繋げていけるようなクラブ活動が理想。高校にも関わっていただけると良い。
- 勝つことを目標に、どう努力させるかが大事。学校活動の延長であるように、教育面など流れを変えないよう繋げていけたらいい。
- 勝負、挑戦する意識を持ち続けたい。そこに学びがある。
- お楽しみがあったり社会貢献できたりする活動もいい。
- 文化部であれば、入賞するなど発表する場があるといい。目標・目的を持って取り組めることで、喜びを感じたりや人間形成ができるのではないかな。
- スポーツを続けていくことは楽しいと感じられるのが SDGs なのかなと思う。モチベーションを持った練習ができてその後も続けられたらと思う。燃え尽きるのはかわいそう。
- 結果は大事だと思うが、うまくいかないとやめてしまう子もいる。正しいことではないと思う。続けられるほうがよい。
- 総合文化・科学部について、人間的つながりを大切にしている。子供同士のつながりが大切だが、心配な子もいる。大会等はないが、地域の文化祭などに声をかけてもらった。地域の人との関わりは多く、喜んでもらえる体験ができる。
- 今後、学校の統廃合の話題も出てくるようになるのではないかな。中学校を町内1校にして、今の拠点校部活動の移動の課題などを克服することや、多い人数の中での活動を広げるという取組もできると思われる。
- 地域移行によって、子どもが大会に選手として出る機会が減るという心配の声も聞いたことがある。
- 将来的には、子どもが多様な活動を複数選択できる自由度もあってよいのではないかな。スポーツと文化活動の両立、競技系とボランティア系の両立など、無理のない程度に豊かな活動の広がり環境づくりも視野に入れていってはどうかな。

(2) 運営団体

- 地域クラブ等の運営主体を早く決めることで、様々なことが見えてくる。
- 町の考え方を具体的に早く説明してもらいたい。
- 具体的には学校→町→地域団体の流れが望ましい。
- 移行先が民間団体か外部委託にしても、町との連携は必要である。
- 移動の問題や連絡の共有の問題（拠点校でもなかなか行き届かない現状がある）、また生徒の一人一人の状況に配慮できる意味でも、町、もしくは町と関係が深い団体が主体となることがよい。
- 部活動と言っている間は、町主体であると認識している。
- 先進地であっても大きな市町のようにではなく、内子町の規模で考える必要がある。3～5年等、ある程度のスパンで軌道に乗るまでは町が主体であるのが望ましい。
- 近隣の生徒が自分の市で活動ができず、近隣の町として内子を希望している事実がある。町外の生徒を受け入れることも考えていく必要があるのではないか（拠点校の間はできないが）。移行したら、町外からも受入れができればいい。ただ、町主体であると補助金の関係で制限がかかるのか。
- 総合型スポーツクラブには、賛成であるが、経営の観点から、種目を制限する必要があると考える。人数が少ない部活は、自己負担が多くなることが見込まれる。今あるすべての部活をとすることは難しいと考えられる。あふれるところは、町が補助するなど、（本格的な部活動というよりは、）エンジョイに近いやり方があると思う。
- 総合型スポーツクラブは、（種目を）減らさないと経費がかかりすぎることから厳しいということは分かるが、（種目を）絞ったら子供の選択肢が減ることが懸念される。
- どういう線引きをして部活動を設定する（減らす）かも悩む。
- 種目を減らすことが、結果的にクラブチームへの移行や、内子町からの子供の流出につながる可能性もある。
- 総合型スポーツクラブをつくることで、逆に周辺地域から人が集まる可能性もあるのでは。大洲から内子に来ることもありだと思ふ。ゆくゆく目標として。
- 町主体でも財源は一緒。町が片手間にするより、主団体があつたほうがいいと思う。スポーツクラブが委託されてできるか。
- お金があればやれると思う。委託にはしないのか。
- 教育的視点も含めた活動として、団体設立のほうで考えたいと思う。
- 町が主導した場合、地域クラブ移行の費用や運営費用の考え方についても、

視点を変えればそんなに大きな問題ではないのではないかと思います。一つの業務が追加したものと考えるなどすればよい。

(3) 経費・財源

- 会費の案については、実際の支出を示していかないと分かりにくい。
- 会費 6,000 円はいいと思うが、地域差がある。内子も地域振興費を集めたらいいのではないか。子ども・親に負担が増すので町からの補助が必要なのではないか。
- 子どもの数が減ってきていることは事実として把握している。組織を作ってもいずれ立ち行かなくなるのではないか。
- P T A 会費においても同様である。P T A に入らないという選択も出てくるかもしれない。親が P T A に入らないで子どもが部活をする場合、などもあり得る。
- 部活動の種類によるが、楽器一つとっても莫大な金額であり、なかなか民間で対応することは難しいのではないか。町がバックアップしなければ立ち行かないと思う。
- お金の問題が大きい。自治体によっては部活動をやめるところもある。
- 吹奏楽部となると楽器が壊れたらどうするのか。という疑問もある。
- 設備もお金次第。ボランティアというのはないと思う。お金がないとどうしても動かないと思う。
- 文化祭等への出店やたい肥作りなど、部活動の活動（例えば総合文化・科学部の活動でできた成果物）を資金集めに生かすという視点も取り入れてはどうか。
- 様々な部活動がある中で、部費をどのように調整していくか、検討が必要である。

(4) 指導者

- 地域の指導者に移行していく際に、教員の関わりやノウハウは必要である。
- スポーツ強化を中心に指導者を選べばよい。スポーツ協会は専門性があり、指導できる人材もいる。令和 8 年度までに指導方法をしっかり学ばないといけない。受け皿を決めるのも大事だが、同時進行で指導者の育成も必要。スポーツ協会は協力する。
- フィットネスクラブ Ryuow やスポーツ協会にお願いして指導者を確保しないといけない。社会教育となり、地域と関われるクラブになればよい。
- 拠点校前は、部活動で不得手な部活動の指導をせざるを得なく、担当が重荷になる教員もいたが、拠点校になって部活が絞られ、やりたい競技の指導

に付けることで教員もやりたい指導ができていることが拠点校に移行した利点である。

- 指導できる競技であれば指導したいという教員がいるため、兼職兼業でいけるとよい。
- 現在の卓球部のように（生徒と同数程度の協会からの指導者がいる）、指導できる教員がいない部活動に、民間のサポートを得られるようにしたい。
- 兼職兼業で指導できれば、町主体を維持でき、いろんな課題（活動時間、教育面、移動面、会費面等）がクリアできるのではないかな。
- 教員によったら、部活の指導後も学校の職務に戻る人もあるかもしれないのは課題である。
- 県も人材バンクに力を入れてきはじめていたので、連携を広げるとよい。
- できれば、指導者の公募はしたくない。書面で適性を判断するのは難しい。
- 役場職員が指導者になれないか。例えば、勤務時間を遅出勤務とかフレックスにする等にして部活動までを勤務時間とする、など。
- 指導者は大事。それぞれのクラブで指導者の考えがある。「強い」チームを目指すのか、「楽しい」チームを目指すのか決めて、総合型スポーツクラブとしての足並みをそろえる必要があると思う。
- 「強い」チームか「楽しい」チームか統一する必要はないと思う。子どもが選択できるほうがよい。
- 全体でこうなってほしいというのは難しい。不安はない状態を維持し、変化に合わせていく。目的はみんな違うと思う。同じ目的というのは難しい。よほど求心力のある人でないと。
- 人集めからになると思う。やるにしても種目も制限することになる。
- 人材バンクの在り方をもっと周知してもよいのではないかなと思う。大学生を呼ぶというのもないわけではない。
- 大学生は通っている子がいると思う。発掘すればいるのではと思う。
- 社会教育団体とのコラボも検討してはどうか。
- 指導者の育成をどう行っていくかが大切である。

(5) 活動時間

- 活動時間は16時からにする必要はないと思う。若い指導者を考えると18時ぐらいの時間帯の方がいいのではないかな。
- 活動時間は、夜になるのかなと思う。
- 夜の活動は、子どもや保護者の負担が大きく、一律に導入は難しい面があるのではないかな。部員が一気に減る可能性もある。指導者の確保の課題を克

服しながら、緩やかな移行（まずは、平日は夕方の活動で推移させて、相談しながら、徐々に夜の活動が取り入れられるような広がり）がある方が、受け入れやすいのではないかな。

(6) 活動内容

- 総合スポーツ部の状況があまり分からない。内容が分かればありがたい。
- 将来子どもが減ってくることによって、部活動の種類も減っていくのではないかな。

(7) 移行方法の周知

- 拠点校部活動も地域移行も、変化することについてはよいと思う。一番の懸念は、生徒の親が受け入れられるかということが心配。説得に難しさを感じる。
- （地域移行となれば、）自己負担も増える。魅力発信することは最低限必要である。
- お金は絶対にかかる。その財源を考えなくてはならない。魅力発信は必要。
- 新しくできた部活動は、保護者会などがないので、保護者の意見が分かりづらい。保護者会などを作る必要性などもあると思う。

(8) 特色・工夫

- チームカラーを決めるとか、ロゴマークをつくるなど、応援する雰囲気をつくるというのは。愛媛 FC を応援しようというような雰囲気があると支援が集まるのではないかな。